

# 保健分野における 開発政策とイニシアティブとは

(特活)アフリカ日本協議会

稲場 雅紀



# 援助における「政策」の必要性

## ❁ 途上国の開発に関する「政策」とは

❁ 「開発援助」の建て前＝相手国が、援助を必要としない自立した国になるために、今、援助を行う。  
(やがて撤退することが前提)※「国際交流」や「貿易」との違い

- この目的の達成のためには何が必要？

- 「とにかく援助をする」ではなく、相手国を自立させるための方法論に基づいた援助が必要。
- そのためには、援助の相手国や、援助国・援助機関との連携に基づいた、相手国の自立のための「政策」が必要。



# NGO活動における政策の重要性

## ❁ NGO：市民社会の自立的主体。

→原則としては、「どこで何をしようが」自由

→国や国際機関、その他の政策に引きずられる必要はない

## ● NGOに求められる社会的役割

- 一方での「公益」団体としてのNGOの社会的位置付け
- 社会的な公益の中に位置付いた「目的」をもち、「成果」を出すことが必要
- ここで、国際的・国内的に形成された「政策」との調和化・協調が必要になってくる。



# NGO活動にとっての 「政策」の実利的重要性

## ❁ 政府・援助機関の「対等な開発パートナー」としての位置づけ

- ❁ →政府・援助機関の「政策」と協調することによる社会的位置付けおよび資源へのアクセスの確保
- ❁ →そのためには、これらの「政策」とNGOの事業との調和化・協調が必要

## ❁ 個別の事業案件の重要性に対するアピール効果

- ❁ →何らかのイニシアティブなり政策に位置付いていることを示すことで、新規案件のプロポーザルが通りやすくなるなど。



# 保健分野の開発イニシアティブ

多国間援助 の政策・イニ シアティブ	全体的 なもの	(例) 国連ミレニアム開発目標
	個別的 なもの	ロール・バック・マラリア、アブジャ目標等
		DOTS戦略、Stop TB HIV/AIDSに関するコミットメント宣言
二国間援助 の政策・イニ シアティブ	米国	米国大統領エイズ救済緊急計画 (PEPFAR)
		大統領マラリアイニシアティブ
	日本	保健と開発イニシアティブ(HDI) 橋本イニシアティブ(寄生虫症対策)など

それぞれの政策には、上下関係、連携関係、競合関係が存在している。

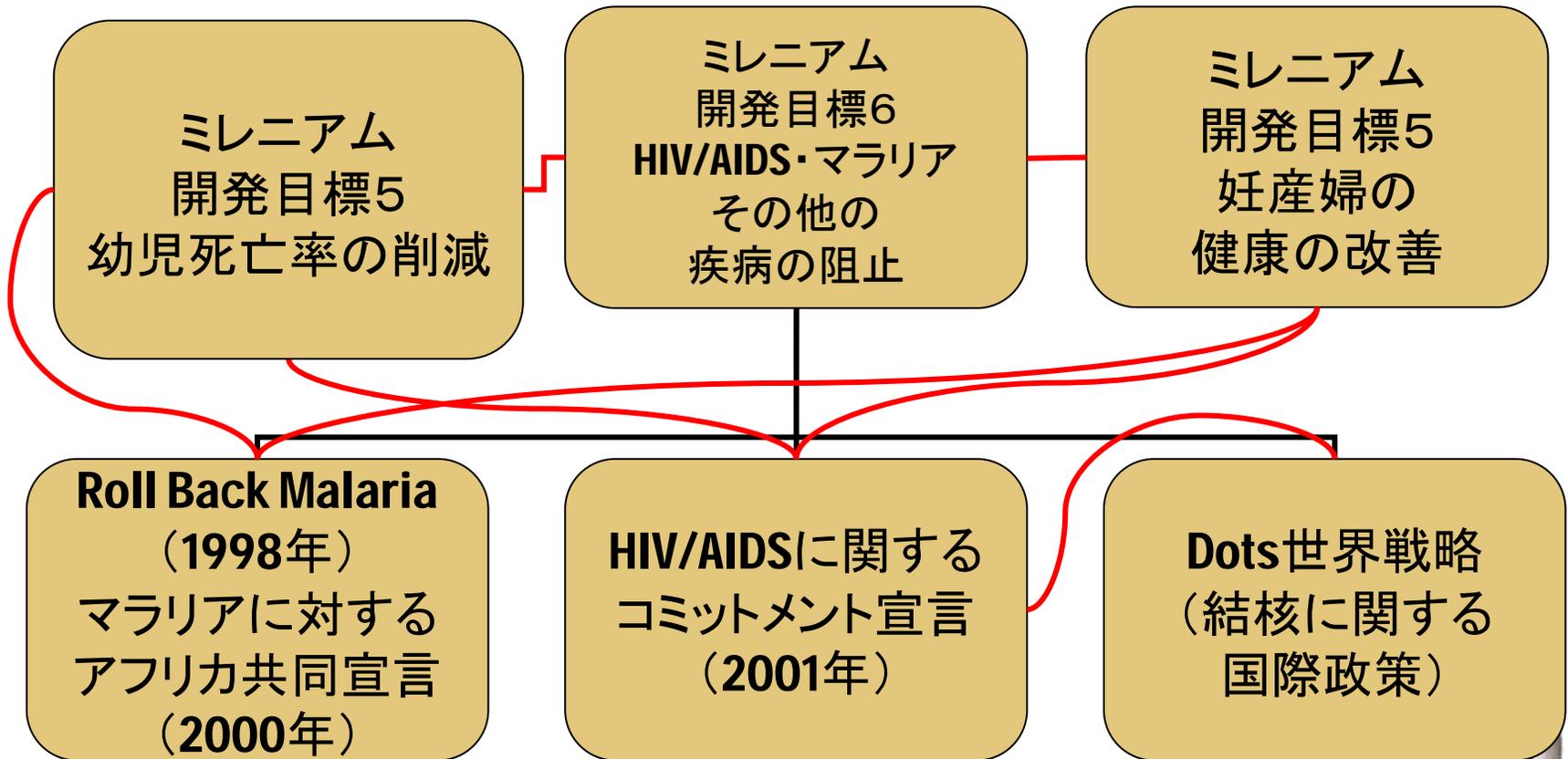


# 国連ミレニアム開発目標の重要性

- ❁ 2015年に向けた開発目標として最も包括的かつ重要なもの。8つの目標、18のターゲットで構成。貧困の解消と教育・保健の普及を主要課題として設定。
- ❁ 保健については3つの目標を設定。
  - ❁ 乳児死亡率の削減
  - ❁ 妊産婦の健康の改善
  - ❁ HIV/AIDS、マラリアその他の疾病の阻止
- ❁ 保健関係のイニシアティブはミレニアム開発目標の達成を軸に設定されている。



# 国連ミレニアム開発目標とその他のイニシアティブの関連性

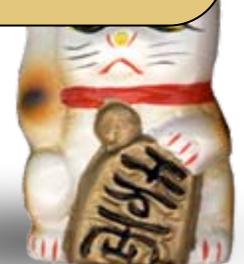


計画立案・評価  
等WHO, UNAIDS  
他

実施系国際機関  
UNICEF, UNDP,  
etc.

連携機構  
Stop TB  
Partnership他

二国間援助機関  
USAID, JICA,  
DfID, その他

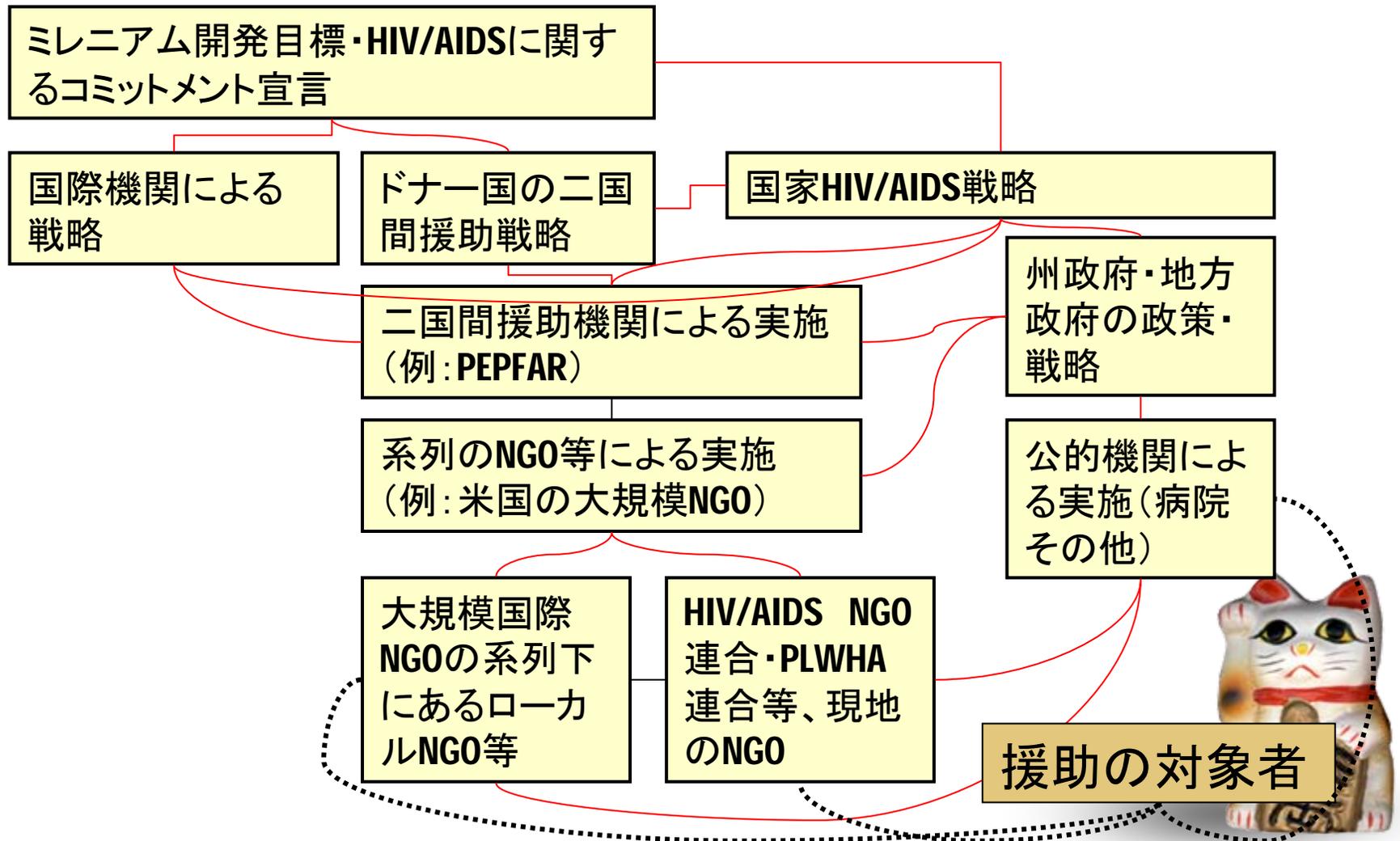


# 各感染症対策の国際的イニシアティブ (HIV/AIDS, マラリアを例に)

マラリア	HIV/AIDS
<p><b>ロールバック・マラリア(1998):</b>2010年までにマラリアによる死者を半減</p> <p><b>アフリカ共同宣言(2000)</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>❁ 感染時の迅速な治療(マラリア患者の6割が症状発生24時間以内に適正価格で治療にアクセス)</li><li>❁ 殺虫剤処理済蚊帳の使用(感染の危機下にある人口の6割がITN等保護手段を使用)</li><li>❁ 妊婦へのマラリア感染予防の強化(妊婦の6割がITN, IPTにアクセス)</li><li>❁ 自然災害・人災時のマラリア予防</li></ul>	<p><b>HIV/AIDSに関するコミットメント宣言</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>❁ 国家による政治的コミットメント</li><li>❁ 包括的なHIV/AIDS対策とそれへの資源動員の重要性を強調</li></ul> <p><b>WHO/UNAIDS 3×5戦略</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>❁ 2005年末までに300万人に治療を供給するイニシアティブ(HIV治療)→目標達成には届かず(130万人まで)</li><li>❁ 2006年からは「2010年までの包括的予防プログラム、ケア、治療へのアクセス」に変更</li></ul> <p><b>三つの統一(Three Ones)</b></p> <p>UNAIDSの援助協調戦略</p>



# HIV/AIDSに関するイニシアティブとNGOの位置づけ(例)



# 日本の保健関係イニシアティブ(1)

## ❁ 1994-2000:人口・エイズ分野に関する地球規模問題イニシアティブ(GII)

- ❁ 日米連携(日米コモン・アジェンダ)での地球規模問題への取り組みとして実施
- ❁ 7年間で合計30億ドルの拠出を目標
- ❁ この実施のために政府とNGOの公的な対話チャンネルが実現(GII連絡会)

## ❁ 1998:国際寄生虫対策構想(橋本イニシアティブ)

- ❁ 寄生虫病に関する人作りと研究活動の拠点を作り、人材育成と情報交換のネットワークを作る(→KEMRI、野口研、マヒドン大学 等)
- ❁ シャーガス病対策など、「無視された病気」への対策の充実に一定の効果をもたらした。



# 日本の保健関係イニシアティブ(2)

- ❁ **2000～2005年 沖縄感染症対策イニシアティブ (IDI)**
  - ❁ 2000年の沖縄サミットで日米が打ち出す
  - ❁ 感染症への取り組みの主流化、世界エイズ・結核・マラリア対策基金の設立を方向付け
  - ❁ 日本は2000-2005年の5年間で30億ドルを拠出。
- ❁ **批判点: 感染症への直接対策が少ない(全体の20%程度)、資金拠出は感染症と関連ある援助額を後で集計しただけとの批判も。**



# 日本の保健関係イニシアティブ(3)

## ❁ 保健と開発イニシアティブ(2005-2010)

- ❁ 国連ミレニアム開発目標の保健関連の達成を焦点化
- ❁ 2005-2010の5年間で50億ドルのコミットメント
- ❁ 「人間の安全保障」「横断的取り組み」「MDGsの達成」を重点とした包括的な保健関係援助指針。
- ❁ 保健システム強化を重点化している。

※具体的な成果については、まだ実施1年程度なので未知数である。

本文 : [http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/hoken/mdgs/initiative\\_h.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/hoken/mdgs/initiative_h.html)



# NGOにとっての政策・イニシアティブの重要性とアドボカシー

## ❁ 日本の独自性:

- ❁ →実施系NGOが独自にプロジェクト立案・実施
- ❁ →政府はこれを「援助の国民参加」として支援(開発のパートナーとしての位置づけではない)
- ❁ →政策・戦略とプロジェクトの全体からの位置づけの軽視

## ❁ 欧米の場合:

- ❁ →実施系NGOとアドボカシー系NGOの連携(例:TB/HIV複合感染問題等) = 「政策」の重要性による
- ❁ →実施系NGO自らがアドボカシー(例:MSF、国際HIV/AIDS連盟、OXFAM 他)

❁ どちらにも善し悪しの部分はあるが、日本のNGOも、全体の中での自らの位置づけやトータルな政策との調和を検討する必要がでてきている。

